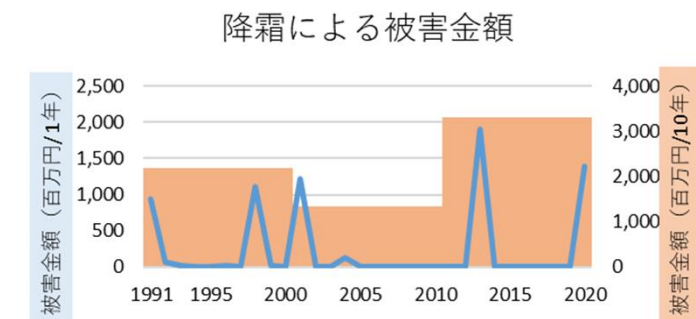
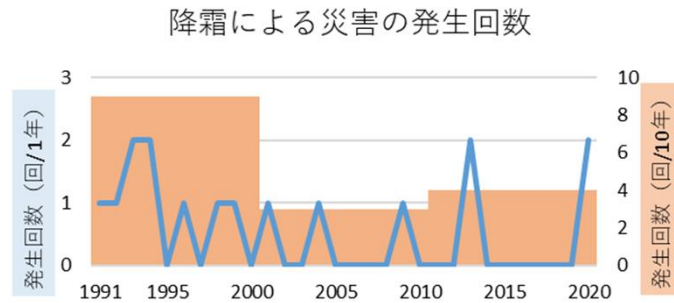
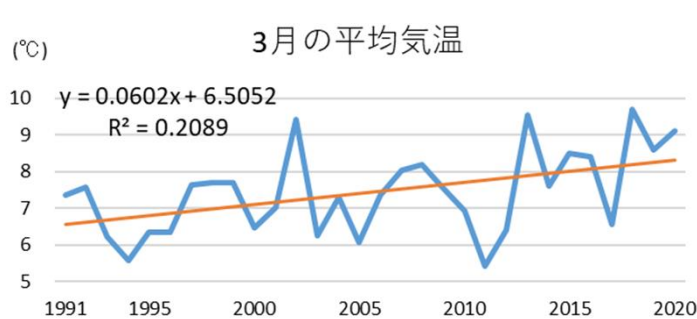


# 県全域における降霜の発生・被害の傾向

## 【全体概要】

- 近年顕著である春期の温度上昇により発芽期・開花期が早まることによる晩霜害の増加が懸念されている\*2。
- (図左) 宇都宮における3月の平均気温は、過去30年間で上昇傾向が現れている(信頼度水準95%で統計的に有意)。一方で、4月の平均気温には有意な傾向は見られない。
- (図中) 降霜による農業気象災害の発生件数は、過去30年間で平均0.5件。10年単位の発生件数は9、3、4件。
- (図右) 降霜による被害金額は、過去30年間で平均228百万円。10年単位の金額は2,194、1,348、3,297百万円。



(注) グラフのオレンジ部分は、10年単位(1991~2000年、2001~2010年、2011~2020年)の合計値

## 【主な被害品目】

- 過去30年で被害金額の大きい主な品目は、梨(4,724百万円)、麦類(1,104百万円)、水稻(38百万円)。
- (図左) 梨の災害件数・被害金額は、最高で年間9件、最大の被害金額は2013年の1,882百万円。
- (図中) 麦類の災害は、1998年の3件のみ。その際の被害金額は1,104百万円。(図右) 水稻の災害は、1991年の1件のみ。その際の被害金額は38百万円。
- 降霜災害において、梨の災害件数、被害金額が大部分を占めている。
- 農業用施設の被害は無く、水利施設の被害金額は過去30年で5百万円となっている。

